

実習報告：医療ソーシャルワーカーの存在意義

目次

1. MSW とは
2. 地域医療について
3. 業務内容・病院の機能
4. 実習先概要
5. 事例研究
6. SWer の存在意義
7. まとめ

1. MSW とは

MSW（医療ソーシャルワーカー）は、医療機関で患者とその家族が抱える心理的・社会的な問題を解決する調整役を担います。入院中の患者や家族が直面する不安や心理的負担に対してサポートを行い、患者が退院後の生活にスムーズに移行できるよう支援します。

2. 地域医療について

地域医療とは、患者が生活してきた地域で医療を完結させる考え方です。病院は地域に密着し、地域の医療機関と連携して効率的に医療を提供します。地域医療構想により、医療のニーズと病床数が適切に配分され、急性期から慢性期までの医療機能が強化されます。

2. 業務内容・病院の機能

MSW の業務内容には以下のようなものがあります：

- **入退院支援:** 患者がスムーズに入退院できるようサポート。
- **社会復帰支援:** 退院後の社会復帰を支援、職場や学校との調整。
- **受診援助:** 患者や家族が適切に医療を受けられるよう支援。

病院の機能は、急性期から回復期、慢性期に至るまでさまざまな医療の提供が行われています。MSW は、患者がどの段階にあるかに応じて、適切な支援を行います。

4. 実習先概要

以下は実習先として訪問した医療機関の概要です：

1. 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

- 高度専門・急性期医療を担う中核的総合病院。
- 33 の診療科、736 病床。
- 精神科病棟では、身体合併症の患者に対応。

2. 兵庫県立尼崎総合医療センター

- 高度専門・急性期医療を担う中核的総合病院。
- 1～3 次医療に対応、730 病床。

3. 医療法人 信和会 明和病院

- がん指定診療拠点病院、急性期医療。
- がん相談や外来サポート。

4. 兵庫県立リハビリテーション中央病院

- 回復期リハビリ専門、14 診療科、330 病床。
- 患者の立場に立ったチームアプローチによるリハビリ医療。

5. 医療法人 仁寿会 石川病院

- 回復期リハビリ病院、365 日リハビリ実施。
- 理学療法士、作業療法士による支援。

5. 事例研究

模擬事例Ⅰ：透析と治療方針

- **基本情報:** 80 代男性、慢性腎不全・心不全の患者。自己断薬後、症状悪化。
- **問題点:** 本土で透析を受けるか、島で過ごすかを決める必要がある。
- **関わり:** 介護保険申請のサポートを行い、家族の意向に寄り添いながら支援を実施。

模擬事例Ⅱ：がん疼痛コントロール

- **基本情報:** 80 代女性、肝細胞癌、仙骨転移による痛み。痛みをゼロにしたい家族と現実的な治療の食い違い。

- **問題点:** 家族 A（娘）は痛みをゼロにするまで退院しないと言い、家族 B（孫）は自宅退院を希望。
- **関わり:** 痛み管理と退院後の支援計画を調整し、緩和病院への転院を提案。

6. SWer の存在意義

- **患者と家族の意思をくみ取る:** MSW は、患者や家族の感情に寄り添い、医療が機械的な作業に偏らないように介入します。患者や家族の意思をくみ取ることで、より人間的なケアを提供します。
- **調整役としての役割:** MSW は医療チームと患者・家族の意見を調整し、話し合いの場を提供して問題解決をサポートします。これにより、医療の質が向上し、患者が安心して退院することができます。
- **安心できる環境の構築:** MSW は退院後の社会復帰を支援し、患者が安心して生活できるような環境を作り出します。社会復帰支援は、職場や学校との調整を通じて行われます。

7. まとめ

- **時間と状況の変化に対応する重要性:** 患者や家族の考え方や思いは状況に応じて変化します。そのため、SWerとして柔軟に対応し、寄り添いながら支援することが大切です。
- **ジレンマへの対応:** 複数のジレンマに直面した際は、患者や家族の視野を広げ、選択肢を増やすことによって、最適な支援を提供できます。
- **多職種連携:** チームアプローチによって多方面からの支援が可能となり、患者のQOLを向上させるために必要な支援を漏れなく提供できます。